

BUNKA FASHION COLLEGE

SUMIRE KAI

文化服装学院 すみれ会 (同窓会) すみれ会報



Photo by Kazuma Iwano (Sol inc.) 2024年度文化祭I部ファッションショー「One」より



2025

NO 65

NEWSLETTER OF SUMIRE-KAI

文化服装学院 すみれ会 (同窓会) すみれ会報

CONTENTS

- 01 すみれ会会長あいさつ
- 02 すみれ会名誉会長インタビュー
- 04 すみれ会の活動
- 06 『すみれ会報』の歩み
- 08 卒業生取材サイト、LINKSを知っていますか？
- 10 文化服装学院の今
SHOWS, EVENTS
CONTESTS
- 14 INFORMATION
会計報告／会員手続きについて／すみれ会会員特典
教員採用情報／文化学園服飾博物館のお知らせ／古本募金

すみれ会会長あいさつ

Message

激動の時代の中、若者の自由な価値観をサポートし バックアップしていくことがすみれ会の役目だと考える

皆さま、こんにちは。2025年のすみれ会会報誌をお届けできますことを、心よりうれしく思います。

今、ファッション業界はまさに激動の時代です。原材料費や燃料費の高騰による物価上昇、消費行動の変化、そしてデジタル化の急激な進行など、これまでの常識が通用しない新しい時代の中、新しい流通が次々と生まれている今、いかに次のファッションビジネスを作っていくかが、大きな課題となっています。

だからこそ、新しい挑戦が必要です。オンライン販売の強化、SNSによる発信力の向上、バーチャルとリアルを融合させたプロモーション戦略、そして文化の多様性を理解した上での感性。今、日本のファッションを学びたいという若者たちが世界中から日本に集まってきています。彼らは単に流行を追いかけているわけではなく、感性の深さや日本の職人技といった言葉では言い表せない“美意識”を体得しようと、真摯な姿勢で学びに来ています。その姿に触れるたび、私たち自身も初心を思い出し、「なぜファッションを志したのか」「なぜ創ることに心を動かされたのか」と、自分自身と向き合うきっかけをもらっています。

日本、そして世界中の若者たちが自身の感性や技術、文化、思想が掛け合わされることで国境や価値観の違いを超えたかつてない創造が生まれようとしています。それこそが、いま芽吹きつつある“越境するファッション”の姿なのだと私は確信しています。

私たちは店頭でのものづくり、そして技術と次のファッションを生み出す人たちをつくる環境を整えることでサポートし、私たちの経験、情熱、そして志を次の世代へとしっかりとつなぎ、彼らが自由に力強く羽ばたける土壌を築いていくことが私たちすみれ会の役目だと考えております。

皆さまどうか今後とも、よろしくお願いいたします。



佐藤 正樹氏
すみれ会会長
佐藤繊維株式会社 代表取締役

すみれ会名誉会長インタビュー

Interview

専門性を超えて手を取り合い、変化の時代に応える創造力を育てる

常に社会や時代の先を読み、進化を続ける文化服装学院。今、ファッションにとって何が重要で、どのような教育が必要とされているのか。ファッションの現在地と未来への展望を、相原 幸子学院長に伺います。

—— 今年度、文化服装学院が重点的に取り組んでいることはありますか？

2024年度の後期から、新たに「コンテスト対策ゼミ」を立ち上げました。文化服装学院は多種多様な学科を有することが特徴のひとつですが、これまでコンテストに特化した教育体制は整っていませんでした。そこで、有志の学生を対象に、少人数制で丁寧に向き合うゼミ形式を導入したのです。

まず取り組んだのは、コンセプトワークの強化です。図書館や博物館を活用したリサーチや、思考の言語化・視覚化に時間をかけるなど、“服をつくる前の準備”に重点を置いています。この過程こそが、これまで多くの学生にとって壁となっていた部分でもあり、あえてじっくりと取り組む意義を感じています。また、作品制作に不可欠な、染色やニット、手芸といった素材づくりの技法

も、ゼミの中で学ぶ機会を設けました。

現に、第25回YKKファスニングアワードでは、ゼミ生が1次審査を通過するなど、その成果が少しずつ形になっています。加えて、かつてコンテストで活躍した卒業生たちが自主的に訪れ、後輩たちに自身の経験を語る場面もありました。こうしたつながりも、学生たちの刺激となる大切な時間だと感じています。

さらにもう一つ、昨年度はファッション工科専門課程とファッション工芸専門課程から選抜された6名の学生が、楽天ファッションウィークに初めて参加しました。その反響は大きく、今年度からは全課程に門戸を広げたことで、説明会には60名を超える学生が参加し、関心の高さと学生のやる気がうかがえました。現在は、来年3月の本番に向けて準備を進めていますが、可能であれば前回よりも参加枠を拡大し、より多くの学生が夢の舞台に立てるようにしたいと考えています。また、選抜された学生には、希望に応じて発表の場につながるよう、展示会やショー会場の提供など、実践的なサポート体制の整備も検討しています。

—— 今、日本のものづくりを取り巻く状況も大きく変

わってきています。「MADE IN JAPAN」の価値を、どのようにとらえていらっしゃいますか？

長年の課題でもある、後継者不足やコストの問題に加え、近年、日本国内の工場が海外資本に買収されるなど、ものづくりの現場は大きな変化の中にあります。それでもなお、技術を守り、脈々と継承を続けている産地も、全国にはまだ多く存在しています。

昨年度から、ファッション工科基礎科の全学生を対象に、国内の産地を訪ねる研修を実施しています。今年は、その成果発表の場も設けられ、私も実際に学生たちの発表を見ましたが、とてもよい取り組みだと実感しています。自らの目で現場を見て、職人の方々から直接お話を伺い、工程を間近で体験することこそが、ものづくりの本質を理解するうえで、何よりも大きな学びになるのではないかと考えています。

—— AIや3D技術、生成系のツールが急速に発展していますが、こうした技術との向き合い方について、どのようにお考えでしょうか。

テクノロジーの進化は、もはや止めることのできない時代の流れです。だからこそ今、改めて「手仕事」の価値が見直されていると感じています。文化服装学院では、基礎技術の習得を何よりも重視しており、そうした積み重ねは、たとえデジタル技術がいくら進化しても決して揺らぐことのない“強み”になると信じています。ドレーピングや縫製といった手を動かす技術は、未来においても服づくりに欠かすことのできない力であり、必ず現場で生きてくるものです。

一方で、デジタル分野の教育も着実に進化を遂げています。『すみれ会報』63号でもご紹介した「バーチャルファッションコース」は、開設からまだ2年ほどですが、すでにゲーム会社に就職した卒業生も生まれています。また、電通グループとロブックス社と連携して行った「デジタルファッションプログラム」では、第1期生の修了制作の中に、AIと対話しながら作品を作り上げた学生もあり、その完成度の高さには私自身、非常に驚かされました。この取り組みが評価され、今年9月には、担当教員と修了生全員がアメリカ・ロブックス社に招かれることになっています。

AIや3D技術は、デザインの現場にとどまらず、流通や販売といった領域にも大きな影響を及ぼしていくでしょう。ファッション工科専門課程に限らず、ほかの専門課程においても、デジタルに特化した学びを広げていく時期に差しかかっていると感じています。

—— 改めて、文化服装学院の魅力は、どんなところにあると思われますか？

時代に即して常に更新される実践的なカリキュラムに加え、文化施設や実習環境の充実、恵まれた立地など、文化服装学院には教育の現場を支える体制が整っています。ですが、それ以上に大きな魅力といえるのは、多様な感性や価値観を持つ学生たちが大勢集い、同じ時代にファッションのスペシャリストを目指しているという点にあります。個性あふれる学生同士が互いに刺激し合い、交流を深めることで、創造力はより豊かに広がっていくことでしょう。

そうした学生たちの個性を生かし、今後さらに力を入れていきたいと考えているのが、「学科を超えたコラボレーション」です。たとえば、ファッション高度専門士科とファッション流通高度専門士科の学生がチームを組み、ひとつのプロジェクトに取り組む。異なる専門性が交わることで、新しい表現やビジネスの可能性が広がっていきます。実際にファッションフェスティバルで見たファッション流通専門課程のショーは、コーディネートに独自の視点があり、ものづくりとはまた異なる角度から、ファッションの面白さを再認識しました。

ファッションの現場は、一人で完結することが難しく、異なる分野の仲間と力を合わせることを求められます。スペシャリストたちがそれぞれの役割を担うことで、初めて一着の服が世に出ていく——在学中からそのプロセスを実感できるような学びを、今後も模索していきたいと考えています。

—— 最後に、会員の皆さまにメッセージをお願いします。

今年も、11月3日(月・祝)に「すみれ会 同窓会パーティ」が文化服装学院にて開催されます。当日は、すみれ会の会長や副会長をはじめ、毎年足を運んでくださっているデザイナーの方々や、業界の第一線で活躍されている先輩方との出会いもありますので、名刺交換をしたり、仕事のヒントを得たりと、キャリアの可能性を広げる機会として、ぜひご活用ください。

また、今年は初の試みとして、「1年目」の卒業生に加え、「10年目」の卒業生の会費を無料といたしました。初参加となる1年目の方には、新たな一步を踏み出す機会として、そして10年目を迎える方には、これまでを振り返る節目として、同窓の仲間と再びつながるきっかけになればと願っています。



相原 幸子先生
すみれ会名誉会長
文化服装学院学院長

すみれ会の活動

Sumire kai's Activities

文化祭(11月2日～4日)、 すみれ会関連イベントのご案内

本年度の文化祭は、11月2日(日)～4日(火)に開催されます。さらに趣向を凝らしたファッションショーをはじめ、様々なイベントや展示をお楽しみいただけることと思います。文化祭の詳細(ショーの開催時間、各種イベント、展示など)は決定次第、文化服装学院公式サイトにてご案内させていただきます。

すみれ会同窓会パーティ

昨年に引き続き文化祭期間中に同窓会パーティを開催いたします。すみれ総会の後、パーティとなります。すみれ会員はどなたでもご参加いただけますので、みなさまお誘い合わせの上、ぜひ足をお運びください。

日時:2025年11月3日(月・祝)
12時受付開始 12時30分～14時30分 パーティ
場所:文化学園J館体育館アリーナ
事前予約:不要
会費:3,000円(軽食あり)

※当日会場受付にて会費をお支払いください。
※すみれ会会員証をお持ちの方はご提示ください。

※2025年3月卒業生および卒業後10年目の2016年3月卒業生は、
会費無料でご参加いただけます。

すみれサロン

会員のみなさまが休憩所としてご利用できる「すみれサロン」を11月2日(日)～4日(火)の10時～17時30分(4日は16時まで)で開室しております。飲み物とお菓子をご用意しておりますので、ぜひお立ち寄りください。ただし、すみれ会同窓会パーティ開催中(11月3日12時30分～14時30分)は閉室となります。

文化祭ファッションショー

C館エントランス受付にて、すみれ会会員証のご提示で観覧チケットをお渡しいたします。この観覧チケットは枚数に限りがあるため、配布終了となる場合もございますことをご了承ください。

寄付のお願い

すみれ会は会費のみで運営しています。円滑な運営と将来のファッション界を担う準会員の支援のため、会員のみなさまにはすみれ会の活動をご理解いただき、寄付をお願いいたしたく存じます。

寄付金の募集要項

[寄付金の使途]

学業優秀で今後の活動が期待される在校生の学業支援、および海外留学を希望する優秀な在校生・卒業生の留学支援として奨学金を給付する。

[寄付金対象者]

すみれ会員、法人・企業

[寄付金の額]

1口1,000円より

なお、金額の多寡にかかわらず、ありがたく承ります。 ※控除対象外

[募金期間]

募金期間は定めておりません。継続的に募金活動を行っております。

[申込み方法]

郵便振替にてお振り込みください。

■振込先: ゆうちょ銀行振替口座

■口座記号番号: 00150-7-766997

■口座名称(漢字): すみれ会寄付金口

■口座名称(カナ): スミレカイキフキングチ

※ゆうちょ銀行以外から振り込まれる場合は下記となります。

■ゆうちょ銀行019(ゼロイチキュウ)支店

■当座預金口座番号 0766997

[お問合せ先] 文化服装学院すみれ会 TEL: 03-3299-2073
<https://sumirekai.bunka-fc.ac.jp>



すみれ会 Web サイト



文化服装学院公式サイト

すみれ会奨学金

「文化服装学院すみれ会奨学金」制度は、将来のファッション業界で活躍が期待される準会員の支援を目的とし、2016年度より施行しております。会員の皆さまからのご寄付も一部活用させていただいている同制度。

2025年度においても成績優秀な在学生4名が選抜され、日々の学業に生かされていることをご報告いたします。

また、4月6日(日)の入学式で、壇上において受給者への授与式を執り行いました。その晴れやかな姿は、新入生の目にもしっかりと焼きついたはずです。

〔2025年度すみれ会奨学金受給者〕

服飾専門課程 服飾専攻技術専攻	ファッション工科専門課程 ファッション高度専門士科4年	ファッション流通専門課程 ファッション流通専攻科	ファッション流通専門課程 ファッション流通専攻科
細田 優衣さん	桂 日向映さん	山本 美侑さん	村上 桜香さん



受賞風景



記念撮影

「すみれ会海外留学サポート奨学金」 制度のご案内

創立100周年を契機とし、グローバルに活躍する意志を持った学生を対象に、卒業後のフィールドを海外へと広げる第一歩を支援する「海外留学サポート奨学金」制度を設立しました。2022年度より運営を開始し、2023年度の奨学生まで2名が選出されています。第1回(2022年)奨学生である大槻嘉己さんは、今年留学先の「Kingston University」の1年間のコースを修了し、さらに同大学大学院へ進学を予定されています。第2回(2023年)奨学生の藤井安寿星さんもイタリア留学に向けて準備を進め、留学直前とのことです。

同制度へは卒業生も応募可能で、今年度の対象者は2020年3月～2025年3月までに文化服装学院を卒業した方です。

例年6月をめどとして、すみれ会Webサイトの「NEWS」にて応募要項を公開していますので、海外留学を検討中の方はぜひご覧ください。

第1回(2022年)奨学生 大槻 嘉己さん
(2022年度服飾専攻科オートクチュール専攻卒業)

第2回(2023年)奨学生 藤井 安寿星さん
(2023年度ファッション高度専門士科卒業)

第1回(2022年)奨学生 大槻 嘉己さんより 留学での学びについてのご報告

1年目のコースは無事すべての課程を修了され、9月からは同大学院である Kingston University MA Fashion に進学される予定です。

また、昨年末には授業と並行して、国際的な刺繍コンテスト「Hand & Lock」の学生ファッション部門にエントリーし、みごとファイナリスト(最終6名)に選出されました。このコンテストの展示会は11月にロンドン中心部で開催され、会場にてグランプリが発表される予定です。現時点ではまだ公式発表はされていませんが、8月中旬に「Hand & Lock Prize」のInstagramにて発表がある見込みとのことです。

多忙な留学生活の中でも、イギリスでの暮らしをとて充実して過ごしていると語ってくださいました。

引き続きイギリスでの学びが続きますが、将来の目標であるコスチュームデザイナー、そしてアートフラワーアーティストとしてのご活躍に向け、さらなる飛躍をぜひ温かく見守っていただければと思います。



前期の最終課題
テーマ:「メンズウェア×装飾」

コンペティションHAND & LOCK
ファイナリスト選出作品制作風景

『すみれ会報』の歩み

A History of Sumire-kai

文化服装学院、草創のとき

文化服装学院の前身「文化裁縫女学校」が、東京府各種学校令により、わが国最初の洋裁教育の各種学校として認可されたのは、1923年のことです。並木 伊三郎先生と遠藤 政次郎先生によって踏み出したこの学校の第一歩は、第一次世界大戦の終戦や関東大震災による混乱のさなかにありながらも、先見の明を持って日本人の服装改革を目指し、“新しい時代の服装文化をつくる”という確かなヴィジョンを感じさせるものでした。

1928年、現在の文化式原型の基礎となる「並木式原型」が考案され、1934年にはその普及のため出版部（現・文化出版局）が設立。洋裁技術を広く一般に伝える書籍『洋裁全書』や、服装専門雑誌『服装文化』が刊行されます。1935年には文化式服装教育の集大成ともいえる教科書『文化洋裁講座』全6巻の制作にも着手し、翌年、服飾研究雑誌『装苑』を創刊。校名も「文化服装学院」へと改称され、日本のファッション教育を牽引する体制が、少しずつ形づくられていきました。

こうした洋裁技術の確立や普及に先駆けて、1926年に同窓会誌『すみれ』（現・『すみれ会報』）がいち早く誕生しました。「うつふして 匂う春野の花すみれ 人の心にうつしてしかな」という貞明皇后の御歌に由来するといわれる、文化服装学院のシンボル“すみれの花”。その名をいただいた『すみれ』に込められたのは、服飾を通じて未来を紡ごうとする、静かで揺るぎない願いでした。

毎年、会員の皆さまにお届けしている『すみれ会報』は、文化服装学院と歩みをともにしながら、日本における洋装の普及と教育の“今”と“これから”を綴ってきました。その前身『すみれ』の創刊から、まもなく100年。変わらぬ想いと挑戦を胸に前進を続ける文化服装学院の姿勢に寄り添ってきたその軌跡を、いま一度ふり返ります。

広がる学び、育まれる絆

1945年、第二次世界大戦の終結とともに、日本にアメリカのファッションや文化が流れ込みます。若い女性たちの間で洋装への関心が一気に高まり、服装教育を求める声も全国に広がっていきました。その追い風を受け、文化服装学院の卒業生たちはそれぞれの故郷で教室や学校を開設。新しい時代にふさわしい“学びの場”が、彼女たちの手で各地に芽吹いていったのです。この動きはやがて全国へと波及し、1948年には地方でも同等の教育が受けられる「連鎖校制度」が発足。同じ志を持つ卒業生の輪は広がり、すみれ会も地域を越えて支え合う全国規模の同窓会組織へと成長しました。

戦後復興の熱気に包まれた1950年代。社会には自由なファッションを求めるムードが一段と強まり、「デザイナー」という職業にも注目が集まりはじめます。1951年、「デザイン科」が新設され、文化祭では「コスチュームショー」と題したファッションショーが恒例行事に。さらには、クリスチャン・ディオールやピエール・カルダンら世界的デザイナーを招いた大規模なショーも実現し、海外との技術・文化交流も活発に行われるようになりました。時勢を反映するかのように、1955年に地上9階・地下1階の高層円形校舎が代々木の地に完成します。その斬新な建築は、文化服装学院の象徴として強い存在感を放ちました。また、若き才能の登竜門として知られる「装苑賞」もこの時期に創設され、多くのデザイナーたちがこの舞台を



『すみれ会報』の前身として、1926年に刊行された同窓会誌『すみれ』の創刊号。ひたむきに生きるすみれの花が、シンボルとして描かれている。



1942年にやむなく発行中止となった『すみれ』第13号が、1950年に復刊。160ページを超えるボリュームで、当時のトレンドや研究成果など、卒業生に向けた多彩な情報が掲載された。



『すみれ』第14号（1964年）は、学園創立40周年の特集号。学友会とすみれ会が合同で編集・発行していた時代のもの。



学園創立50周年を記念した『すみれ』第24号（1974年）。当時のカルチャーを感じさせるすみれの抽象的で大胆なデザインが魅力。



すみれ会独自の会報誌『すみれ会報』第1号が1978年に誕生。年に2回、新聞形式で発行され、会員のためのニュースレターとしての役割を担っていた。



『すみれ会報』第9号(1982年)は、カラーの特別版。紙面には、円形校舎に通い、未来を見つめる活動的な学生たちの姿が見られる。



すみれ会総会・親睦会において、卒業生・山本 耀司さんの講演会開催を告知。『すみれ会報』第37号(1996年)より、年1回の発行となる。



文化学園の新校舎竣工を記念した特集。叡智と慈愛の女神像の後ろにそびえるツインタワー構造が目を引く。『すみれ会報』第39号(1998年)。

経て、ファッション界へと羽ばたいていきます。

一方で『すみれ』もまた、時代の波に揺られながら歩み続けてきました。戦時下の物資統制による休刊と戦後の復刊を経て、1951年には、学友会との合同会誌『すみれ』第1号として再出発を果たします。困難を超えてなお、教育の灯火を絶やさぬ意志と、知と感性を届けようとする教育者の熱意が、受け継がれ、守られてきたのです。

『すみれ会報』の芽吹き、つなぐ想い

1970年代以降、教育の現場もファッションの現場も、より多様で実践的な方向へと進化します。文化祭のショーは学生主体の企画へと発展し、創造性に満ちた表現の場として定着。1979年には「遠藤記念館」が完成し、こけら落としとして、高田 賢三さん、コシノ ジュンコさん、山本 耀司さんら卒業生によるファッションショー「世界にはばたく10人のデザイナー」が開催されました。同年、「文化学園服飾博物館」も開館し、創立60周年を機に、文化資産の保全と発信が本格化していきます。

ファッションと教育の熱気高まる中、1978年に『すみれ会報』が創刊されます。50年代より学友会とともにつくられてきた『すみれ』から、すみれ会独自の媒体として、新たな一歩を踏み出したのです。

創刊時、すみれ会会長・大沼 淳先生は、「ファッション界のあらゆる分野で大きな活躍をしている卒業生たちが、研究や教育、連携を通じて、日本のファッションの

源流を築くかもしれない。卒業生同士をつなぎ、刺激し合い、絆を育む“有機的な結合の手段”として、会報が必要だ」と語りました。その言葉どおり、『すみれ会報』は卒業生の手により、卒業生のためにつくられた媒体として生まれ、今もなお、その役割を果たし続けています。

1980年代には「服飾専門課程」をはじめとする各種専門課程が整備され、現在の教育体系の基礎が築かれていきました。1998年、21階建ての新校舎が完成し、教育環境も大きく変化。2015年にグローバルファッションスクールランキングで世界第2位に選出され、2023年には第41回毎日ファッション大賞・特別賞を受賞するなど、文化服装学院は、国内外で高く評価されるに至りました。

同時に『すみれ会報』も、文化服装学院の歴史に寄り添い、その時代にふさわしい形を探し続け、2001年にはホームページ開設を機に、紙とWebを併用したデジタル化に取り組みます。一方、紙媒体の価値も改めて見直され、2013年の創立90周年号では冊子型へと刷新。節目ごとに時事を伝えながら、文化服装学院と卒業生の記憶を縫いとめ、そのつながりを丁寧に紡いできました。

今、媒体という枠を超え、多様な形で発信する時代が始まろうとしています。それでも変わらないのは、卒業生たちの気持ちをひとつに結ぶ、しなやかな糸でありたいという想いです。ファッションに夢中だったあのころの高揚感を呼び起こす存在として、これからも『すみれ会報』は、卒業生同士のつながりを育む一助でありたいと願っております。



2001年、文化服装学院のホームページが開設されると、『すみれ会報』第43号よりコンパクトな紙面に。ウェブ時代を見越した発信方法へと変化していった。



文化学園創立90周年を迎えた特集号。新聞形式から冊子へと再び戻り、学内のトピックスを中心に構成された。『すみれ会報』第54号(2014年)。



令和元年に発行された『すみれ会報』第59号(2019年)。すみれ会の表記が欧文になり、ファッション的な小冊子としてデザインされている。



文化学園100周年記念号。表紙には、美しい夕空に映える文化服装学院の円型校舎の写真を象徴的に使用。『すみれ会報』第63号(2023年)。

園井 りさ

Vol.29

レイビームス バイヤー



モードからストリートまで扱う ショップでの買付け

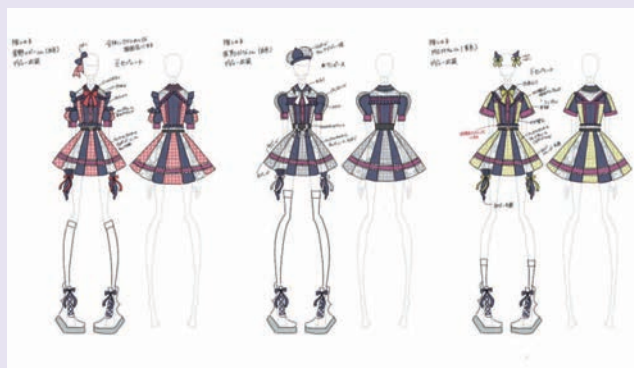
ビームスにはBUNKAの卒業生が大勢働いています。ショップスタッフから内勤に異動した人が大半のようです。彼らの話を伺っていると、店とお客さんへの愛情に満ちていることに気づきます。ブランドへの思い入れも深く、長い付き合いを大切にしています。ビームスにいつも活気がある背景には、社員ひとりひとりの意識の高さがあるのでしょう。

レイビームス バイヤーの園井 りさ(そのい・りさ)さんは、ファッション高度専門士科の卒業生。「ビームスなら“売る”だけでなく“伝える”こともできると感じて入社しました」と言います。服づくりができる能力もいかして、販売員だったとき様々な企画を提案したことが現職に結びついたようです。彼女は「ビームスを通じて洋服を通じて、少しでも社会貢献することを目標に日々を過ごしています」と語ります。彼女に会うとそれが心からの言葉であることがよくわかります。



(上) 顧客向けのビームスの内覧会にて。昔馴染みの顧客に接客。
(下) 同僚のバイヤーとミュベールの展示会にて。

卒業生取材サイト、LINKSを知っていますか？



(上)【推しの子】のデザイン画。(下)ドラマ・映画【推しの子】で手がけた衣装を出演女優たちと撮影した、装苑2025年1月号の表紙。



成田 あやの

Vol.45

アイドル衣装クリエイター



学生の憧れ職業ナンバーワン!? 女子の夢が詰まった衣装デザイン

新しい服がすぐSNSでシェアされ消費も激しい現代において、10代の高校生が憧れる夢のファッションとはなんでしょう？答えのひとつがアイドル衣装のようです。衣装を希望してBUNKAに入学する人が増えています。衣装全般を手がける大手衣装会社はあっても、アイドル衣装を専門にする会社はまだごく少数。自身の会社「udonfactory」を立ち上げた成田 あやの(なりた・あやの)さんはこの道を切り開いたイノベーターです。

出身コースはII部服装科。学費も生活費もすべて自身でまかいました。卒業して最初から独立して活動。学生時代からPV撮影の現場などを手伝ってきた彼女ですが、「各タレント事務所にたくさんメールを送りました!衣装を手がけたい希望を熱心に伝えて」と当時を振り返ります。現在は漫画原作の映画・ドラマ【推しの子】の衣装を手がけるほどの売れっ子に。立ち止まらず走り続ける彼女の人生は続きます。

氏家 友彦

Vol.37

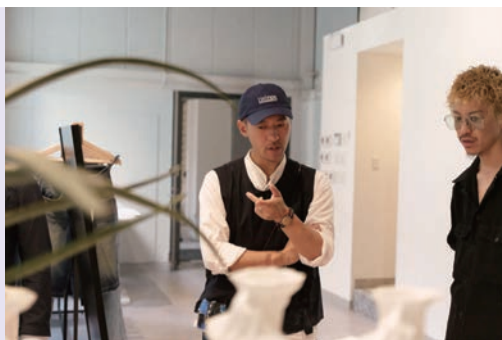
高島屋 マーチャンダイザー



世界中からエッジーな感性を 大手百貨店に運ぶ

大手百貨店の高島屋において、「MD本部 紳士服・紳士雑貨・スポーツ部 担当部長／マーチャンダイザー」の肩書を持つ氏家 友彦（うじいえ・ともひこ）さん。年2回のパリ・ファッション・ウィークをはじめ国内出張も多い行動的な人物です。若手メンズバイヤーたちを総括し現場の動きをディレクション。世界中からフレッシュなブランドを探して日本に運びイベントを企画。ジャンルはモード、ストリート、サブカルチャーまで多岐にわたります。高島屋にエッジーな感性を運ぶのが氏家さんの大きな役割です。

出身コースは旧スタイリスト科。セレクトショップ勤めからはじまり、イベント運営会社勤務なども経験し現職に。「日頃の仕事のうち、もっとも時間を割くのが社内外の打ち合わせです。そしてもうひとつが展示会巡りですね」と日々の業務を語ります。主な売り場の担当は自主編集売り場の「CSケーススタディ」。百貨店を次の時代へ導くキーパーソンです。



（上）世界中の先鋭的なブランドを集めた合同展示会で仕掛けのアイデアを練る。（下）ウジョーの展示会にて。高島屋の若手バイヤーたち、CS ケーススタディ店長とともに。

すみれ会の公式サイト内で月イチ更新の連載LINKS（リンクス）。第一線で活躍する若手～中堅のBUNKA 卒業者を取材するコンテンツです。高校生は入学するコース選びの参考にして、現役BUNKA 生は仕事探しのリサーチに役立てています。ここではアーカイブ回より4名をご紹介します。

一史

LINKS制作者 編集ライター／フォトグラファー

旧ファッション情報科卒業。文化出版局に就職しミスターハイファッション、装苑の編集者に。独立してフリーになり、現在はPen Onlineをはじめメディアの記事制作、ブランド撮影、商品リリースづくりなどを行う。LINKSの制作担当は2022年Vol.3から。



（上）ディテールを多彩にアレンジ可能。（下）パターン、裁断、縫製ができるリーバイス®が運営する東京都内のアトリエにて。

田 真行

Vol.47

リーバイス® マスターテラー



一点もののオーダーデニムを 任された仕立ての実力

2025年8月時点での最新号は田 真行（でん・まさゆき）さんです。リーバイ・ストラウス ジャパンに勤め、フルオーダーの一点もののジーンズとジャケットを仕立てる、日本を含むアジア地域で唯一認定された「マスターテラー」です。LINKSが田さん取材した大きな理由は、長く低迷していたデニムの人気が復活してトレンドになった現在のデニム事情を探りたかったから。アトリエ訪問が許可されて、実り多き現場体験ができました。

田さんはブルックス ブラザーズの店に9年勤務してからの転職組。仕立てを覚えたのはBUNKAの服装科時代です。「優秀な学生ではなかったけど縫うのは楽しかった」と言います。仕事で経験した接客と、学生時代に習得した仕立て技術が実を結びました。仕事の喜びは顧客に完成したデニムを手渡すするとき。「『感動しました!』と言われると嬉しいです」とのこと。リピーターが多いことが田さんの仕事の確かさを証明しています。

文化服装学院の今

文化服装学院は、ファッションショーをはじめとするイベントが多い学校だといわれています。その様子は日々公式 Web サイトでもアップされていますが、ここでは2024 年度後半から2025 年度前半にかけて開催されたファッションショーやイベント、コンテストなどの一部を改めてご紹介します。

SHOW, EVENTS

密着動画

イメージ動画

文化祭Ⅰ部
ファッションショー

One

文化祭Ⅰ部ファッションショー「One」は6つのシーンで構成され、全89体の作品が登場。各シーンでは、異なる視点や感性が表現されており、個々のデザインが独自の世界観を形成していると同時に各シーンが描く物語は一貫したメッセージ「One」を共有しており、ファッションが持つ多様性と統一感を同時に感じられるショーをつくり上げました。新たな取り組みとして、リバーレース生産量世界No.1メーカーの栄レース株式会社が、文化祭ファッションショー内でコンテストを実施。ほかには人気フォトグラファーである新田 桂一氏撮り下ろしによるスペシャルブックを制作・販売しました。また、現代華道家の大園 彩芳氏に直径4mのオブジェをショーのためだけに制作していただき、11月1日（金）のレセプションの際には、ライブパフォーマンスを行いました。



Photo by Kazuma Iwano (Sol inc.)

文化祭Ⅱ部
ファッションショー

Gaia

Ⅱ部ファッションショーは、夜間部有志学生によるもの。「Gaia」をテーマに企画・構成されたショーは、ひとりひとりがデザイン・制作を担い、ショー企画・演出はもちろん、モデル・ヘアメイク・ステージ設営・予告動画制作を含む広報活動、当日の会場運営まですべてを手がけました。



Photo by Kazuma Iwano (Sol inc.)

ファッションフェスティバル



2025年7月27日(日)開催された「ファッションフェスティバル」。ファッションショーをはじめ、各科カリキュラム展示や施設見学、ワークショップ、学生たちによるクリエイターズマーケットなどを開催し、入学希望者の方が多く訪れる一大イベントです。特に目玉となっているファッションショーは、イベントやショーの企画・プロデュースを学ぶファッション流通専攻科の学生たちが中心となり運営するもので、2025年度のファッションショーテーマは五感とsenseを掛け合わせた「5ence」。文化服装学院の在校生が持っている個性豊かな感性を入学希望の方に感じていただき、文化服装学院がショーを見た方にとって自分の好き=senseを自分らしく表現できる、そんな場所とを感じるきっかけになってほしいとの思いが込められています。五感を刺激する演出を参加者に感じてもらえたショーでした。



卒業制作ファッションショー・展示



2025年2月25日(火)から2月28日(金)の期間、卒業制作発表会が行われました。ファッションショーから作品展示、論文発表まで、各科の特長に合わせた形式で、在学中に培ったクリエイション力、技術力、知識が学生それぞれの個性のもととなって作品として昇華され、ファッションの学びの集大成として披露されました。



CONTESTS

夢への一步。国内外のコンテストで相次ぐ受賞！

※学生の在籍科 学年は受賞時となります。

文化服装学院ファッションコンテスト2024



デザイン部門

メンズ、レディースを問わず、次世代を担うデザイナーを発掘することを目的とし、創造性、革新性、完成度を基準として審査される同部門。文化服装学院、文化ファッション大学院大学、通信教育受講生、連鎖校の在校生であり、応募者本人が実物制作可能な実力を有することが応募資格です。2024年12月5日(木)のショー形式による最終審査会で受賞者が決定しました。



A [グランプリ] クック ウィリアム レイモンド ケアレさん (アパレルデザイン科3年)

B [準グランプリ] 川崎 聖空さん (アパレルデザイン科3年)

C [佳作] セキ シリンさん (ファッション高度専門士科4年)



技術部門トワリスト

技術とクリエイションを競うコンテスト。課題デザイン画をもとに、バックスタイルは自由に制作できるのが同部門の特徴であり、トワリストとしての腕の見せどころとなっています。2024年12月3日(火)に公開最終審査会が行われました。デザイナーの意図するスタイルを解釈し、立体にするだけでなく、プラスαの表現がこれまで以上に多様で、審査も白熱したようです。

A [グランプリ] 河野 葉介さん (服飾専攻科技術専攻)

B [準グランプリ] ハン シンイさん (服飾専攻科技術専攻)

C [佳作] 長峯 光海さん (アパレル技術科3年)

D [課題デザイン画] 制作者: 堀江優花さん (ファッション工科基礎科1年) E [審査の様子] 立ち姿審査



服飾工芸大賞

バッグ、シューズ、帽子、アクセサリ、テキスタイル各分野の優秀なデザイナーを発掘することを目的としており、創造性、革新性、機能性、完成度を基準として審査される部門。1次審査を通過した10名が11月29日(金)の最終審査会に進出。審査会では制作者によるプレゼンテーションも行われ、コンセプトや具体的な制作方法などの説明を経て、各賞が決定されました。

A [グランプリ] ショウ ニジさん (ジュエリーデザイン科1年) B [佳作] ワン インインさん (帽子デザイン科2年)

第40回全国服飾学校ファッション画コンクール



全国服飾学校ファッション画コンクールが2024年度も開催されました。「今私が着たい服」という応募テーマのもと、405点もの作品に厳正なる審査が行われ、当学院からはII部服装科 増永 吉里さんが文部科学省総合教育政策局長賞を受賞、アパレルデザイン科 ダランさんが一般財団法人職業教育・キャリア教育財団理事長賞を受賞されました。受賞者2名は日本ファッション教育振興協会ホームページ、SNSなどの電子媒体に掲載されました。



ダランさんの作品



増永 吉里さんの作品

ピギーズスペシャル

東京都の産業である豚革の良さを周知するとともに、豚革に対する正しい評価を高め需要拡大を図ることを目的とした東京産業労働局衣料革促進事業に、ファッション服飾専門課程、ファッション工芸専門課程の学生が参加。東京製革産業振興協議会より提供していただいた豚革で作品を制作し、2024年11月6日(水)、11月7日(木)に開催された「JFW ジャパン・クリエーション2025」で、東京国際フォーラムにてショーでの発表と作品展示を行いました。



INFORMATION

会計報告

2024年度 収支報告

期間：2024年4月1日～2025年3月31日

収入の部

(単位:円)

科 目	金 額	摘 要	
会費収入	10,852,000	2023年度卒業生分1,073名	10,730,000
		2024年度(新規会員・会員証再発行費)(ゆうちょ:新15, 再10@85,000／三井住友:新4、再17@37,000)	122,000
事業収入	438,000	すみれ総会・パーティ申込金	438,000
雑収入	17,657	受取利息(三井住友17,271、三菱UFJ信託 386)	17,657
寄付金収入	23,000	10,000×2、3,000×1	23,000
収入合計	11,330,657		

支出の部

(単位:円)

科 目	金 額	摘 要	
会員証発行費	361,165	会員証発行	361,165
会報発行費	2,444,611	すみれ会報デザイン費、発送準備費等	2,444,611
事業支出費	3,414,320	文化祭諸経費[すみれサロン]	129,120
		パーティ諸経費 [会場設営、飲食代、会場装花代等]	2,325,200
		HP制作	960,000
事務運営費	1,608,274	郵便代、通信費[電話、スマートフォン]、送料	64,974
		会員システム費	1,543,300
会議費	99,090	交通費	99,090
奨学金	2,550,000	I部@350,000×3、留学支援1,500,000×1	2,550,000
会費返金	140,000	10,000×14	140,000
雑費	1,760	残高証明書発行手数料(三井住友 880、三菱UFJ信託550、ゆうちょ通知票330)	1,760
支出合計	10,619,220		
差引剰余金	711,437		
総合計	11,330,657		
前期繰越剰余金	78,740,164		
当期剰余金	711,437		
次期繰越金	79,451,601		

2025年度予算案

期間：2025年4月1日～2026年3月31日

収入の部

(単位:円)

科 目	金 額	摘 要
会費収入	11,480,000	2024年度卒業生1,148名分
	200,000	既卒業生会費、会員証再発行費
事業収入	360,000	総会・パーティ会費 3,000円×120名
雑収入	0	受取利息
寄付金収入	0	10,000×2、3,000×1
収入合計	12,040,000	

支出の部

(単位:円)

科 目	金 額	摘 要
会員証発行費	300,000	2025年度 会員カード製作代、印字代他
会報発行費	2,500,000	すみれ会報65号製作費 (10,000)、同封チラシ、発送用封筒代他 すみれ会報取材・撮影費他／すみれ会報発送準備・発送代
事業支出費	3,800,000	Webサイト更新費用 月額8万×12ヵ月 パーティ諸経費 [会場設営、飲食代他]／文化祭諸経費
事務運営費	1,600,000	会員管理費(システム管理費)／郵便代／通信費等
会議費	250,000	会議[役員会議等]
出張交通費	30,000	打ち合わせ等
慶弔費	200,000	慶弔費、花代
雑費	5,000	残高証明書発行手数料他
奨学金	1,750,000	2025年度すみれ会奨学金給付分(1部35万円×5名(概算))
	1,500,000	2025年度海外留学サポート奨学金分(1名(概算))
予備費	105,000	会費返金他
支出合計	12,040,000	
収支差額	0	

会員手続きについて

永久会員への更新、会員証の再発行、氏名・住所などの変更手続きは、文化服装学院すみれ会Webサイト、または文化服装学院事務局窓口にて承ります。

● 永久会員／会員証再発行／氏名・住所変更の手続き方法

- ① 「会員特典・手続き」→「会員手続き」申し込みフォームに必要事項をご記入ください。
- ② 永久会員への切り替え、会員証の再発行の場合は、お申込み時のメールアドレス宛に会員証発行のお支払い先をご案内いたします。
- ③ 会員証発行費のお支払いが確認でき次第、ご登録の住所に会員証を郵送いたします。

● すみれ会は会員限定SNSサービスを開始いたします。

※SNSの情報はアカウント登録された会員だけが閲覧できるため、安心して参加することができます。

すみれ会SNSでできること

① 卒業後に入る同窓会の住所変更手続きが簡単

卒業後に同窓会からの郵送物(会報誌・催事のお知らせなど)の届け先住所などを個人設定画面から簡単に変更できます。

② Web上で気軽に交流ができる

クラス同窓会のみならず学年や科・クラスの垣根を超えた交流、情報交換・相談が可能に。

● 会員手続き、会員特典、すみれ会SNSに関する問い合わせ先

文化服装学院すみれ会事務局

〒151-8522東京都渋谷区代々木3-22-1 TEL:03-3299-2073

受付時間:9:00～17:00



文化服装学院すみれ会Webサイト

<https://sumirekai.bunka-fc.ac.jp/>

すみれ会会員特典

すみれ会では会員特典をご用意しております。

ご利用にあたっては「すみれ会会員証」をご提示ください。

※特典情報は随時更新しております。最新情報はホームページをご覧ください。

特典① すみれ会報、ご案内の発送

同窓会誌『すみれ会』を年に1回お送りいたします。

特典② 文化学園利用施設

文化学園施設をご利用いただけます。ご利用の際は、必ず「すみれ会会員証」をご提示ください。

文化学園図書館

※開館スケジュールについては、文化学園図書館ホームページ掲載の

「図書館カレンダー(卒業生用)」をご確認ください。

ホームページ: <https://lib.bunka.ac.jp/>

〒151-8523 東京都渋谷区代々木3-22-1

TEL:03-3299-2395

文化学園服飾博物館

※すみれ会会員証のご提示で、無料にて鑑賞いただけます。

展示期間、開館スケジュールなどは文化学園服飾博物館のホームページをご確認ください。

〒151-8529 東京都渋谷区代々木3-22-7

新宿文化クイントビル1階

ホームページ: <https://museum.bunka.ac.jp/>

TEL:03-3299-2387

文化学園ファッションリソースセンター

※テキスト資料室、映像資料室がご利用いただけます。開室スケジュールなどは

文化学園ファッションリソースセンターのホームページをご確認ください。

ホームページ: <https://www.bunka.ac.jp/frc/>

〒151-8523 東京都渋谷区代々木3-22-1

文化学園遠藤記念館 地下1階

特典③ 文化学園事業利用の優待

文化出版局 雑誌定期購読

※雑誌『装苑』『ミセスのスタイルブック』の購読を10%OFFにてお申込みいただけます。

下記ホームページまたはお電話よりお申込みください。

○ 特別割引購読の申込 富士山マガジンサービス

ホームページ: <https://www.fujisan.co.jp/campaign/bunka/>

クーポンコード: sumire2025

※クーポンコードがないと特別割引は適用されません。

フリーダイヤル:0120-223-223

文化事業局購買部

GAKUEN SHOP 表生地・手芸用品コーナー・書籍コーナー 商品を

10%OFFでご購入いただけます。※一部対象外がございます。

ホームページ: <https://www.bunka-koubai.com/>

文化学園遠藤記念館(F館)1階・プラザ棟1階

TEL:03-3299-2034

文化服装学院生涯学習

文化服装学院の充実した施設と設備を利用しながら学べるオープンカレッジと通信教育講座。

ブラッシュアップにも役立つBUNKAファッション・オープンカレッジの入会金を

半額にてお申込みいただけます。

TEL:03-3299-2233

ホームページ: <http://lifelong.bunka-fc.ac.jp/>

文化軽井沢山荘

文化学園関係者のみを対象とする山荘(研修所)。晴れた日には浅間山を一望でき、

軽井沢・プリンスショッピングプラザにも近い好立地で、ご利用しやすい宿泊費も魅力。

有意義な時間をお過ごしください。

〒389-0113 長野県北佐久郡軽井沢町レイクニュータウン

TEL:0267-48-1525

ホームページ: <https://www.bunkakaruiwasansou.com/>

特典④ 協力企業によるサービス

日本旅行

日本旅行の全国支店店頭にてお申込みされると、パッケージツアーを5%OFFでご利用いただけます。

窓口にてすみれ会会員証をご提示ください。(Web、電話でのお申込みは対象外)

国内／赤い風船 海外／マツハ、ベスト

※他社企画、Webコレクションなど、上記ブランド以外は対象外です。※旧日本旅行OMCトラベルは除外となります。

※本人とそのご家族が対象です。※その他各種割引との重複利用はできません。

永久会員への申請、会員証の再発行、氏名・住所などの変更手続きは、

文化服装学院すみれ会Webサイト、または文化服装学院事務局窓口にて承ります。

Webでの各種手続きが難しい方は 03-3299-2073 までご連絡ください。

会員特典にご協力いただける企業、お店を募集しています

会員証の提示で割引が可能になる、特典をつけてくださるなど、

卒業生の皆さまのご好意をお待ちしております。

問い合わせ先:すみれ会事務局 TEL:03-3299-2073

文化服装学院 教員採用情報



ファッションの現場で培った知識や技術を、母校で発揮してみませんか？
文化服装学院では、実務経験を活かして授業や学生生活を支え、
次世代のファッション人材の育成に貢献して下さる方を募集しています。

[募集概要]

常勤助手

●募集人数：若干名

●応募方法

まずはメールでお問い合わせください。折り返し詳細をご連絡いたします。

●問い合わせ先

文化服装学院 事務局 教務部教務一課

TEL:03-3299-2211

メールアドレス:gakuin-saiyou@bunka.ac.jp

※休校日や夏季・冬季休暇中はお問い合わせに返信できかねます。ご了承ください。

※応募書類提出は郵送必着。配属先については本学院にて決定。

文化学園服飾博物館 展覧会のお知らせ

「衣が語る、物語が動く。」

文化学園大学 国際文化学部 国際ファッション文化学科 舞台衣装展示

文化学園大学 国際文化学部 国際ファッション文化学科では、卒業研究として、
毎年、ファッションとパフォーミングアーツの融合を目指した舞台を
企画制作する「卒業イベント」を行っています。
実際の公演で着用した舞台衣装作品を中心に展示します。

会期：2025年10月6日(月)～2025年11月4日(火)

開館時間：月～金 10:00～16:30 / 土 10:00～15:00

※入館は閉館の30分前まで

休館日：日曜、祝日 ※11/2(日)、11/3(月・祝)は開館

入館料：無料

〒151-8529 東京都渋谷区代々木3-22-7

新宿文化クイントビル 1階

TEL.03-3299-2387



不要になった書籍・CD・DVD・ゲームソフトを指定の古本業者に送付すると、その売却代金が文化学園への寄付金となる取り組みです。文化学園のさらなる教育・研究の充実のために、ぜひご協力をお願いいたします。



詳細は右のQRコードから
専用ホームページをご覧ください。



役員紹介



すみれ会会長
佐藤繊維株式会社
代表取締役
佐藤 正樹氏



すみれ会名誉会長
文化服装学院
学院長
相原 幸子氏



すみれ会副会長
株式会社オールファッション
アート研究所 代表取締役
松本 ルキ氏



すみれ会副会長
株式会社ヒロコシノ
代表取締役副社長
小篠 ゆま氏



すみれ会副会長
POTESALA主宰
スタイリスト・衣装デザイナー
飯嶋 久美子氏



すみれ会副会長
文化服装学院
副学院長
朴澤 明子氏



すみれ会副会長
文化服装学院
副学院長
花里 裕氏

BUNKA FASHION COLLEGE

SUMIRE KAI

2025
NO 65

第65号(2025年号)2025年10月1日発行

発行人＝佐藤正樹

編集者＝すみれ会広報活動専門委員会

発行所＝文化服装学院すみれ会

〒151-8522 東京都渋谷区代々木3-22-1 TEL:03-3299-2073



SUMIRE KAI